



図 14.48 角層下膿疱症 (subcorneal pustular dermatosis)

## 2. 角層下膿疱症 subcorneal pustular dermatosis

同義語：<sup>スネドン</sup> Sneddon <sup>ウィルキンソン</sup> Wilkinson 病

### 症状

40歳以上の女性にまれにみられる。体幹や間擦部に紅斑や膿疱が環状ないし蛇行状に配列する。膿疱は速やかに乾燥し痂皮や鱗屑を残す（フリル様の落屑，**図 14.48**）。自覚症状および全身症状を伴わず粘膜症状をきたすこともないが，増悪と寛解を繰り返し慢性に経過する。

### 病因・病理所見・鑑別診断

多くの症例では原因不明であるが，一部の症例ではIgA型骨髄腫や潰瘍性大腸炎を合併する。病理組織学的には，角層下に好中球を主体とする無菌性膿疱を認め，コゴイ海綿状膿疱はみられない。

臨床的にも病理組織学的にもIgA天疱瘡（p.254）と区別がつかないことが多い。そのため鑑別に蛍光抗体直接法が必要である。本症ではIgAの角化細胞間への沈着を認めない。そのほか，真菌感染症，膿疱性乾癬，伝染性膿痂疹などを鑑別する。

### 治療

DDSの内服が有効である。レチノイド，PUVAが有効な例もある。

## 3. 好酸球性膿疱性毛包炎

eosinophilic pustular folliculitis (Ofuji) ; EPF

同義語：好酸球性膿疱性皮膚症 (eosinophilic pustular dermatosis)

### Essence

- 顔面などに主に毛包に一致した，痒痒を伴う丘疹および膿疱が集簇。
- 成年男子に好発，原因不明。再燃と寛解を繰り返し慢性に経過。
- 膿疱内容物に多数の好酸球が混じる。
- ときに HIV 感染症に関連して出現。
- 治療はインドメタシンが有効。

### 症状・分類

20～30歳代の男性に好発する。無菌性で毛孔一致性の痒痒の強い丘疹や小膿疱が環状に集簇し，紅色局面を形成する。遠